

2023年度学生生活アンケート結果——満足度について

■調査と分析方法■

「満足度」や「大学への帰属意識」に係る設問は12問あります（下図参照）。

各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

検証にあたっては回答をポイント化し（「あてはまらない」=1, 「ややあてはまらない」=2, 「ややあてはまる」=3, 「あてはまる」=4）, その平均を過去4年の値と比較しました。

2023年度は調査対象者数818名のうち回答が得られた445名（回答率54.40%）の結果を分析しました。

■分析■

2023年度の卒業生の在学中の満足度の推移（1年生時（青）, 2年生時（赤）, 3年生時（緑）, 4年生時（紫））をみると、概ね年次が進むにつれて満足度が高くなる傾向が見受けられます（図1）。一方で、2年生時に大学生活への満足度（設問8）および学科への満足度（設問9）が低下し、本学への否定的感情（設問13）が上昇する様子もみられ、2年生との関わり方の重要性を示唆しています。

回答者全体の傾向を過去4年の推移でも、学生の満足度は年々、上昇している様子がみられます（図2）。女子大学についての設問（設問15~17）をみても、年々、女子大学への肯定的な見方が増加している様子がうかがえます。

現在、在籍している学年別の傾向に大きな違いは見受けられないものの、他学年と比べれば3年生のポイントがやや低く、図1の結果も踏まれば、2年生および3年生への関わり方によっては満足度がさらに高くなる可能性もあります。

図1 満足度（卒業生、在学中の推移）



図2 満足度の過去4年の推移（2020～2023年度、回答者全体）

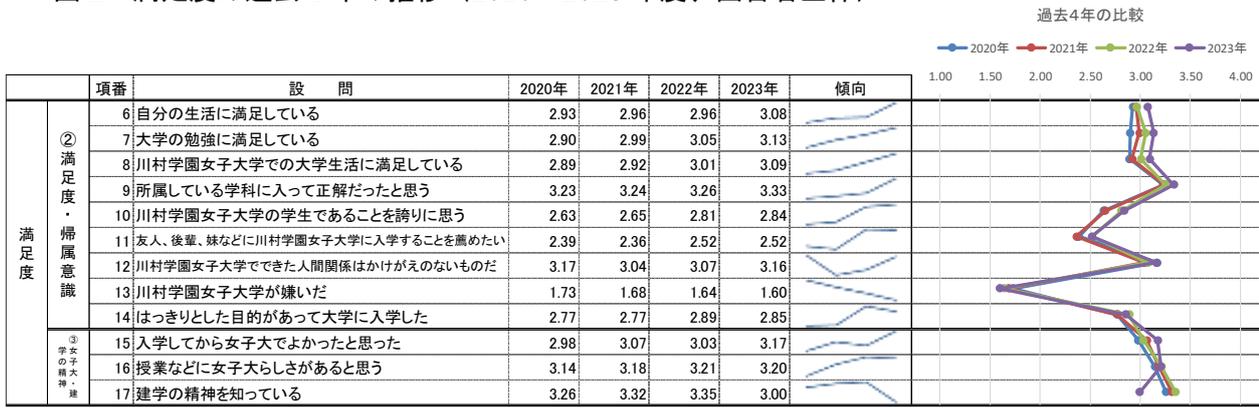


図3 満足度の比較（学年別）

